

平成22年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立泉丘中学校

教諭 黒澤 祐一

1 派遣期日 平成22年1月19日(金)

2 研修先 学校名 高根沢町立阿久津中学校

所在地 栃木県塩谷郡高根沢町中阿久津1470

<http://www.takane-ed.jp/akutsu-jhs/>

3 研修内容

平成22年度 第28回関東ブロック中学校社会科教育研究大会・栃木大会

(1) 全体会

シンポジウム テーマ「地域の資料を生かした歴史の授業と新学習指導要領」

宇都宮大学教育学部 准教授

熊田 禎介 先生

栃木県教育委員会塩谷南那須教育事務所副主幹

小川 孝博 先生

①日本史全体の流れとの関係を考慮した教材化の必要性

地域の歴史が日本全体の歴史に関わっていることを実感できる地域教材の開発

地域から日本の歴史を見る。歴史を見るときのきっかけになる。

②時代を超えて学ぶことのできる内容・・・テーマ設定とその意義

③子どもたちにとって「身近な地域（の歴史）」であることの重要性

身近な地域をどのように見ているのか、どのように見るのか。

研究主題

社会科を学ぶ楽しさを実感させる授業の創造

～活用を主な手だてとして～

研究主題について

栃中社研では、平成17年度から「社会科を学ぶ楽しさを実感させる授業の創造－教材の開発を通して－」をテーマとして三カ年間の研究に取り組んだ。このテーマは次のような理由で設定された。

「学ぶ楽しさを生徒に実感させることは、教科教育における根本的な命題の一つである。特に、昨今生徒の主体的な活動の場になっていた学校行事等が減少するとともに、学力問題がクローズアップされ、各教科・領域等の授業が学校教育の中で占める重みは、一層増している。しかしながら、前回の学習指導要領の改訂に際し、社会科の授業時数は減少し、一時間一時間の社会科授業の質がより問われている。このような状況の中で、社会科を学ぶ楽しさを生徒たちに実感させることを重視していくことにより、社会科がそのねらいとする学力を効果的に育成していけるのではないかと考えたのである。」そして、生徒の実態を踏まえつつ、社会科の目標、社会科という教科の特質に根付いた「社会科を学ぶ楽しさ」を実感させる授業を目指してきた。

①社会科を学ぶ楽しさを実感させる意義

生徒に社会科を学ぶ楽しさを実感させることは、生徒に社会科授業への期待を高めることである。

②社会科を学ぶ楽しさとは

社会科を学ぶ楽しさの基本は「知る・分かる」ことにある。また、主体的な学習は、それ自体が楽しみであると同時に、「知る・分かる」楽しさを大きくさせる。主体的な学習を通して「知る・分かる」に至ることが社会科を学ぶ楽しさを実感させる上で肝要である。

③社会科を学ぶ楽しさのレベル

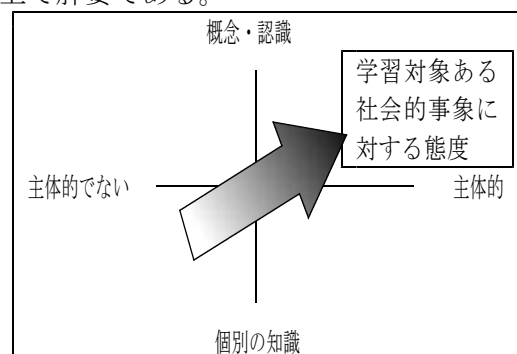
社会科を学ぶ楽しさは「知る・分かる」ことの質と学習活動の主体性によっていくつかのレベルに分けて考えられる。ベクトルの方向に進むほどレベルが高い。

④社会科を学ぶ楽しさを実感させる手だて

社会科を学ぶ楽しさを実感させる手だてを考える際のキーワードは「出会い」と「かかわり」である。

⑤社会科各分野の「学ぶ楽しさ」の特色

社会科の各分野には、それぞれの特質に応じた「学ぶ楽しさ」がある。



本研究における「活用」とは、

- ①思考力・判断力・表現力を育成させる学習活動
- ②習得した基礎的・基本的な知識・技能を生かした学習活動
- ③「活用」した知識や技能が、学習後に深まりや広がりのあるものへと変容する学習活動

(2) 公開授業

歴史分野

1年「近世における産業と交通の発達」授業者 高根沢町立阿久津中学校 教諭 高橋 祐介
学習課題 江戸時代に発達した交通の役割について考えよう。

会津藩の米が江戸まで運ばれるには、どのようなルートと交通手段を使ったのかについて考えさせた。地図と資料プリントをもとに生徒個々にルートと手段を考えさせ、自分の考えと理由を発表した。映像資料により、江戸時代の阿久津河岸（学区にある史跡）の様子を知り、河川交通の特色を理解させた。オリジナル映像を作成し、河岸の様子わかりやすく説明してあった。どのくらい米を運んだのか、経費なども生徒への質問を通して、説明があった。江戸時代に自分の近くの川を使って、会津の米が江戸に運ばれたという実感がもてたように思う。特に映像資料は地域への興味、歴史的事象への関心や驚きを生み出すものであった。

その後、江戸時代の都市の発達に果たした交通の役割を考え、漢字一文字で表現する活動になった。一人一人が、阿久津河岸の役割と江戸の様子を考え、漢字一文字で表現した。途中、グループで生徒と意見交換をし、7名が全体の前で一文字とその理由について発表した。「江」「交」「生」「早」「徳」「栄」「命」が挙げられた。生徒の文字の意味をより広げまとめとした。「交通の条件を有効に使って物を運んでいた。→都市の発達につながっていった。」という板書でまとめていた。

授業反省では、この授業の意義として、

- ①地域資料「阿久津河岸」の効果的な使い方、教材化
- ②江戸時代を地域資料から、交通史として見ることの新たな視点
- ③河川交通の発達が町の発展を促し、江戸の発展につながっていくこと、関連

以上の3つのことが確認された。また、授業への深まりをより高めるために、

- ①河川交通の良さ、経費の問題、人数の問題の説明
- ②なぜ阿久津に河岸を作り、米を江戸に運んだのか、地理的条件の説明が必要だったという考えがあった。

2年「大正デモクラシー」授業者 高根沢町立阿久津中学校 教諭 菊地 一之
学習課題 大正時代の社会運動について考えよう。

地域に起こった小作争議「阿久津村事件」に関する資料やビデオから、社会運動について考えていく授業であった。資料から小作争議で対立する人々を紹介し、社会的立場の優劣を考えさせた。自分の考えをグループ内で発表し、考えを整理した。

さらに、小作争議の特色を漢字一文字で表現する活動になり、生徒の作品をもとにまとめた。

4 感想

学ぶ楽しさを実感させる手段として、身近な地域、地域の教材の開発に力を注いでいた。地域素材の教材化することが大切である。地域教材から、どんなことを学ぶのかということを明確に授業を組み立てていくことの重要性を再認識した。今回の授業では、地域素材を学習指導要領にそって教材化し、特に映像資料を作成することで授業の質を高めていた。そのことで学ぶ楽しさを実感から、分かる喜びになっていったように思う。

「活用を主な手だてとして」というサブテーマにも注目した。今回は、学習した内容を漢字一文字で表現しようという試みであった。漢字一文字と理由を書くことによって、自分の考えをまとめることができる。また、生徒の考えをもとに授業全体をまとめていく流れになっていた。生徒は意欲的に自分の考えを表現していた。「活用」については、多様なことが考えられる。学習内容・授業の流れを含め、理解された知識・技能を効果的に「活用」すべきかより考えていきたいと思う。